



HOKKAIDO UNIVERSITY HOSPITAL 地域医療連携福祉センター NEWS LETTER

No. 0 8

北海道大学病院緩和ケア研修会開催

2009年4月に北海道大学病院は地域がん診療連携拠点病院への指定を受けました。これは厚生労働省が指定するがん診療連携拠点病院のひとつとなります。その拠点病院の業務のひとつとして、がん診療に関わる医師への緩和ケア研修会を2009年9月5日、6日に開催いたしました。院内院外の医師・歯科医師19名と医師以外の医療従事者12名(看護師、薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカー)が参加し、北海道大学学術交流会館小講堂で土曜日の昼から日曜日の夕方まで、のべ740分の内容の研修が行われました。

研修内容も従前のような講義一辺倒ではなく、参加者みずから患者役や患者の家族役を体験し、手術不能の進行がんの告知を受ける疑似体験も含まれておりました。またがん対策基本法に基づき、患者の意向に沿ったがん診療を行うことに重点を置き、症状緩和だけではなく、患者の希望や気がかりを汲み取る内容の研修も含まれておりました。

講師陣も北海道大学病院内の医師以外に、市立札幌病院、北海道がんセンター、札幌南青洲病院、勤医協中央病院からも、指導者研修を受け道内各地の研修会で講師を行っている医師に引き受けていただき、素晴らしい内容となりました。



参加者からは一様に「素晴らしい研修である」「体験型のワークショップが勉強になった」「多職種のメンバーが集まることの大切さがわかった」などの満足度の高い感想を聞くことができました。

これから4年間、毎年1回この緩和ケア研修会を開催いたしますので、来年以降是非ご参加をいただければと思います。緩和ケア研修会に関する問い合わせは、北海道大学病院医事課医療支援室地域医療連携係長(Tel 011-706-5629)または北海道大学病院緩和ケア室(Tel 011-716-1161代表)までお尋ねください。

(腫瘍センター緩和ケアチーム 田巻 知宏)



移植外科診療のご案内

助教 谷口 雅彦

第一外科の移植グループは肝移植、膵臓移植、小腸移植に関する診療を行っています。1997年新設以降現在までに生体肝移植200例（こども49例、おとな151例）、脳死肝移植12例、ドミノ肝移植1例、脳死膵臓移植2例、脳死膵臓移植1例を行っており、北海道はもちろんのこと、九州を初め日本全国から移植希望患者が集まってきています。

外来診療として新来は月曜日と木曜日に、再来は木曜日と金曜日に5名の担当医師と2名のレシピエント移植コーディネーターで行っています。新来は原則として一日最大2名の紹介制（地域医療連携福祉センター経由）となっており、ご紹介いただいた患者さんの病状に合わせて移植適応の有無、時期、成績等につきご本人、ご家族に直接お話をさせていただいております。再来は移植を受けられた患者さんのfollow up、ならびに脳死移植待機患者さんの定期follow upを行っています。また、最近ではインターネットによる函館地区との医療連携ネットワークシステムを利用し道南地区の移植を受けられた患者さんのfollow upを市立函館病院でも行えるようになりました。このネットワークにより遠方から大学に来られる患者さんの大学での外来回数を減らすことにより患者さんの負担を減らすことが可能となっています。

1 肝移植

■1-1 対象疾患

肝臓が機能しなくなった状態の肝不全が移植の対象になりますが、劇症肝炎など短期間（数週間）で悪化する急性肝不全と肝硬変など長期間（何年から何十年）で悪化する慢性肝不全とがあります。

▶成人：劇症肝炎／肝癌／B型肝炎／C型肝炎／アルコール性肝硬変／自己免疫性肝硬変／非B非C型肝炎（原因不明の肝硬変）／原発性胆汁性肝硬変／原発性硬化性胆管炎／肝門部胆管癌／ウイルソン病・α1アンチトリプシン欠損症・ヘモクロマトーシス・家族性アミロイド多発性神経症（FAP）・多発性肝（腎）嚢胞／類洞皮血管内皮細胞種

▶小児：胆道閉鎖症／ウイルソン病・α1アンチトリプシン欠損症・ヘモクロマトーシス・シュウ酸血症・オルニチン・トランスカルバミラーゼ欠損症（OTCD）・糖尿病／劇症肝炎／肝線維症・肝硬変／肝芽腫・肝癌

■1-2 生体肝移植と脳死肝移植

肝移植は健康な生体ドナーから肝臓の一部を移植する生体肝移植と、脳死ドナーから全肝を移植する脳死肝移植の二つがあります。新来にご紹介いただいた患者さんにはまず、この二つの移植についてご説明させていただきます。生体肝移植をご希望される場合には生体肝移植のドナー候補になる方の全身評価を当科外来にて行い、ドナーが決定次第、レシピエントの方に入院していただき全身評価を行います。評価が問題なければ、北大内の肝移植検討委員会、さらに倫理委員会で移植の適応を判定していただき、移植待機、移植手術となります。脳死肝移植待機登録をご希望の場合には、当科入院して全身評価を行った後、北大内の肝移植検討委員会で適応を判定、さらに全国レベルの脳死肝移植適応評価委員会に適応判定を申請し、適応とみなされた場合には日本臓器移植ネットワークにて緊急度に沿った待機点数にて脳死肝移植リストに登録となります。その後3ヶ月毎に当科再来に定期外来followを行い、移植に至るまで患者さんの状態を注意深くチェックしていきます。

2 膵臓移植・膵臓同時移植

膵臓移植は、1型糖尿病の人に行われます。1型糖尿病は、2型糖尿病が中年以降に発病してくるのが多いのと対照的に、若い時に発病することが多いのが特徴です。1型糖尿病では、血糖を押さえる作用のあるインスリンが全く出していないため、インスリン治療で血糖をコントロールするしか治療はありません。しかも、若いときに発病するため、早い時期に、眼、腎臓、血管、神経などが侵され、視力低下・失明、腎不全、壊疽（足の一部に血が行かなくなる）、手足のしびれなどが出てきます。腎不全になった患者さんは週に何回かの人工透析を行っていかなくてはなりません。膵臓移植はこの様な合併症の進行をくい止める、唯一の治療といえます。また、腎不全を合併している人に対しては、膵臓移植を行うことで、人工透析からも解放されます。この様に、膵臓移植及び膵臓同時移植は患者さんがこれまで受けきた多くの制限から解放され、よりよい生活が送れることを目的に行われます。

当科では脳死移植による膵臓移植・膵臓同時移植を行っており、上述の脳死肝移植同様の手続きにて待機登録を行い、登録後は再来にて定期followを行っております。



▲生体肝移植を行う移植チーム

産科外来診療のご紹介

助教 外来医長 森川 守

北海道大学病院産科は、2009年5月に周産母子センター内の新生児特定集中治療室(NICU)の6床から9床への増床ならびに分娩室の他にLDR1床から2床への増床に伴い、正常妊娠ならびにハイリスク妊娠の分娩への対応が以前に比べ充実しました。

夫立ち会い分娩も可能です。すべてのお産に産科医と新生児担当医が立ち会い、安全に分娩が進むようにサポートします。

なお、これまでの主治医制を2007年から取りやめました。外来診療では、曜日毎の担当医固定を取りやめました。現在、外来担当医は原則教官(または学会専門医)が担当しております。入院診療では各妊婦さんに対して受持医(研修医、医員、助教以上の医師各1名)を中心にその日の病棟当番医(医員、助教以上の医師各1名)または当直医が対応いたします。

「産婦人科新患外来」(産科は火曜日ならびに金曜日を担当)

早産や妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、合併症妊娠などのために妊婦・新生児の高度な医療を要する方、他の診療科との連携が必要な方が、地域の医療機関から数多く紹介されます。正常妊娠や里帰り分娩の妊婦さんの受診も歓迎です。



▲LDR

「妊婦一般外来」(再診、月曜日、水曜日、木曜日)

産科婦人科専門医の資格をもつ医師が妊婦外来を担当し、妊婦健診毎に超音波検査で胎児の発育を確認、切迫早産の有無をチェックします。妊娠10ヶ月からは毎週胎児心拍モニタリング検査を加えて胎児の状態をより頻回に評価します。

「妊婦特殊外来」(再診、水曜日、木曜日)

毎週水、木曜日に妊婦特殊外来を設け、全員の妊婦さんに妊娠10～14週と妊娠34～35週の2回受診していただき、妊娠・分娩の管理方針を決定します。

「遺伝出生前診断外来」(火曜日、完全予約制、自費診療)

遺伝カウンセリングと出生前診断に力を入れています。様々な遺伝に関わるご相談や出生前の染色体あるいは遺伝子診断を考慮されている方のご相談に対し、日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会が定める臨床遺伝専門医が完全予約制のもとで十分時間をかけて対応します。

「不育症外来」(再診、木曜日)

流産や死産を繰り返して赤ちゃんを得られない不育症(反復流産、習慣流産)の原因精査と治療を行います。2008年は年間約1600人が不育症外来を受診され、高い生児獲得率を得ています。

「妊婦超音波外来」(金曜日、完全予約制、自費診療)

通常より時間をかけた胎児異常の超音波スクリーニングを行っています。また、妊娠21週以下でのスクリーニングを希望される場合や胎児染色体異常が疑われた場合には当科の遺伝出生前診断外来での遺伝カウンセリングをお勧めしています。

「産後外来」(金曜日、産後1ヶ月検診ならびに3ヶ月検診)

産後外来では通常の子宮復古を確認するだけでなく、産後1ならびに3ヶ月時に将来にわたる女性の健康のための管理と治療をおこなっています。産後1ヶ月検診では新生児医による新生児1ヶ月検診を行っています。家族計画として、次回の妊娠へ向けての相談、避妊指導などをおこなっています。



▲NICU

腫瘍内科 外来診療のご紹介

講師 外来医長 木下 一郎

腫瘍内科では、肺がんや消化器がんをはじめとする固形腫瘍の患者さんの診療（診断、がん薬物療法、放射線科や外科と連携した集学的治療）を行っています。

対象疾患

高齢化社会の進展に伴い、日本人が生涯でがん罹患する確率は、男性49%、女性37%まで上昇しています。当科では、臓器を問わずに横断的に悪性固形腫瘍（白血病などの血液悪性腫瘍を除く）を治療の対象にしております。頻度の高い肺がんや消化器がんを中心に、進行した乳がん、原発不明がんや、その他の稀な悪性腫瘍の治療にも取り組んでおります。

がん薬物療法

最近のがん薬物療法の進歩は著しく、特に分子標的治療薬の開発が急速に進んでいます。例えば肺癌では、ゲフィチニブに加え2007年にエルロチニブが承認され、つい先日ベバシズマブの適応が追加されました。また、大腸がんでは2007年にベバシズマブ、2008年にセツキシマブが承認されました。これらの分子標的薬には、非常に高い有効性を示す患者集団があり、受容体などの遺伝子レベルの違いで治療効果を予測できることがわかってきました。例えばゲフィチニブやエルロチニブでは、上皮成長因子受容体（EGFR）遺伝子変異のある肺がんの大部分（約8割）で著明な効果がでることや、K-ras遺伝子変異のある大腸がんではセツキシマブの効果が得られないことなどが明らかになってきました。当科ではこうした効果予測因子の検査を積極的に行い、患者毎の個別化治療に役立てております。また、北海道や全国の施設と共同で分子標的薬や抗がん薬の臨床試験に取り組み、新しいがん薬物療法の開発に力を注いでおります。

集学的治療

がんの治療は、手術、放射線治療、抗がん薬や分子標的薬を用いた薬物療法が三本柱です。これらを適切に組み合わせる集学的治療によって、多くのがん腫で治癒の可能性が高まることが分かってきました。腫瘍内科では、大学病院の利点を生かして、他の診療科と密接に連携して、手術や放射線治療を含めた集学的治療に取り組んでいます。

外来化学療法

当院では、腫瘍センターの中に化学療法部（外来治療センター）を設置し、専門のスタッフにより安全かつ快適な環境下で、外来化学療法を受けていただいております。腫瘍内科はセンタースタッフや他の診療科と協力し、化学療法部の運営、診療に積極的に関わっており、患者さんに家庭・社会生活を続けながら、充実した外来化学療法を受けていただけるよう努めております。

腫瘍専門外来

当科では、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・暫定指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、日本呼吸器学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本内科学会総合内科専門医・指導医が在籍し、各種の腫瘍に対する専門診療を行っています。毎日初診患者さんの診療を行っております（受付は午前8時30分から12時）。また、血液悪性腫瘍以外の悪性腫瘍の薬物療法や治療方針についてのセカンドオピニオン外来を行っています。詳しくは、地域医療連携福祉センターまでお問い合わせください。



▲腫瘍内科医師と病棟スタッフ

予防歯科のご紹介(治療から予防へ)

准教授 外来医長 本多 丘人

北大病院歯科診療センターでは、予防歯科は「保存系歯科」の一部を担っており、予防中心の外来です。予防は、私立大学の歯学部では「口腔衛生学講座」などの名称で基礎歯科医学系に属しているところが大部分ですが、国公立では臨床系の教室として設置されています。北大病院予防歯科は、道内では唯一の予防を主体としている診療室かもしれません。

歯科健康管理

歯科で扱われる疾患は、量的にはう蝕(むし歯)と歯周病、そしてその結果として生じる歯の喪失が大部分を占めています。う蝕も歯周病も、自覚症状がないまま静かに進行するのが特徴です。悪くなってからの治療ももちろん重要ですが、自覚症状が現れてからでは患者さんの負担(治療に伴う苦痛、時間、医療費)は大きくなります。う蝕も歯周病も、飲食や歯みがきなどの基本的な生活習慣の良否によってコントロールされる疾患であるため、かなり予防が可能な疾患と考えられています。外来では自覚症状のない方にも定期受診を強くお勧めしています。小児のう蝕が減少している現在、受診者の年齢は次第に成人にシフトしてきていますが、10年間以上も定期的に受診されている方は珍しくなく、生活背景を十分に考慮した指導とPMTCと呼ばれる専門的なクリーニング、疾患の早期発見と早期対応などにより、歯を失う可能性は低くなり、歯科的な健康が保たれます。予防歯科外来では、ほとんどの診療は健康保険の範囲内で行われています。また、電話予約があれば待ち時間なしで受診できます。



▲歯科的健康管理を行っている予防歯科外来

口臭外来

予防歯科診療室の一角に口臭専門外来が開設されており、札幌市内のみならず道内各地から口臭を主訴とした患者さんが訪れます(要予約)。この外来では、口臭を実際に機器(オーラルクロマ)で測定することができます。

口臭の原因は、大半が口腔乾燥症(ドライマウス)に起因するものです。その次の原因は、歯周病や多量の歯石付着によるもので、「胃が悪い」などはごくわずかです。口の乾燥は、唾液量の減少または口呼吸により起こります。唾液量の減少と口呼吸にはそれぞれ様々な要因があり、それらが単独または複合して影響を及ぼしていることも少なくありません。また、その原因を突き止めることができてもその原因を除去するのは容易でなく、結局は対症療法になることが多いのが現状です。しかし、口臭は大幅に低減できますので、多くの受診者の方から喜んでいただいています。診療は健康保険の範囲内で行っています。



▲口臭測定装置オーラルクロマ

がん化学療法レジメン管理と腫瘍センター化学療法部への参画

薬剤部 主任 久保田 康生

薬剤師の業務は、内用薬・外用薬の調剤、注射薬の調剤、市販されていない特殊薬剤の調製、高カロリー輸液や抗がん剤の無菌的混合調製、薬剤管理指導業務（服薬指導）、薬品管理業務、医薬品情報管理業務（DI）など多岐に渡ります。中でも、がん化学療法に関しては、近年、エビデンスに基づく質・安全性共に高い治療の提供が求められていることから、薬剤師はがん化学療法のレジメンを薬学的に管理すると同時に、腫瘍センター化学療法部に於いて抗がん剤無菌調製業務や患者さんへの服薬指導を中心に行っています。

がん化学療法レジメン管理

がん化学療法のレジメン管理においては、如何にしてエビデンスに基づいたプロトコルにて、質・安全性の高い治療を標準的治療として提供するかに重点が置かれます。病院内で行うすべての化学療法は、事前に医師、薬剤師など多職種エキスパートによって構成されたプロトコル審査委員会にて妥当性を検討したのち院内オーダリングシステムにセット登録のうえ施行されます。薬剤師は、化学療法施行前日に、患者さん毎に身長や体重、病状などを確認し、投与量や投与期間、休薬期間を含め、プロトコルに沿った投与設計か否かを監査したのち施行に備えます。現在、セット登録されているプロトコル数は約250種であり、常に最新のデータを収集しています。



▲抗がん剤の無菌調製

腫瘍センター化学療法部への参画

腫瘍センター化学療法部は、外来患者さんが安心してがん化学療法を受けられるよう医師、看護師、薬剤師が治療前・治療中のサポートはもちろんのこと、精神的な不安や悩みについても患者さんと一緒に考える「チーム医療」を行っています。現在1日平均25名の患者さんが当施設にて化学療法を受けています。

薬剤師は、このチームの中で、大きくわけて2つの役割を担っています。ひとつは、抗がん剤の無菌的調製です。前日に監査された患者さんの個別セットを基に、当日の診察内容や検査結果を確認し、患者さんひとりひとりの病状にあっているかを再確認したのち、無菌的に調製し、監査を行っています。もうひとつは、服薬指導です。化学療法を受けるとき、患者さんは特に副作用について大きな不安を抱き、常に「家で具合が悪くなったらどうしよう」というような気持ちでいます。まずは、この漠然とした大きな不安を具体化し必要以上の不安を取り除いてあげることが必要です。そのためには、プロトコルに沿って副作用の説明を行うとともに、患者さんの想いを傾聴します。その上で、それぞれの副作用（不安）に対し、自宅でもできる対処法などをチームで検討し説明を行います。また、主治医に対処薬の処方提示し、必要

性を検討することも行っています。もちろん、抗がん剤のほか、他科他院の処方薬、民間療法や健康食品の相談も常時行っています。さらには、次回受診の際、上手に対応できた点やできなかった点をフィードバックしてもらい、チーム内で再度話し合い、患者さんと一緒により良いQOL（生活の質）の向上を目指しています。



▲抗がん剤投与患者への服薬指導

形成外科 整容・美容外科外来のご紹介

助教 外来副医長 舟山 恵美

平成21年5月より形成外科の外来診療に、年配者を対象とした『整容・美容外科外来』を開設しました。

高齢化社会に突入した現代においては、年配の方々が充実した生活を送るために身体と心のケアを十分に行っているかが重要な課題になってきております。当科における抗加齢医療(アンチエイジング)は単に身体的な見た目を改善する医療ではなく、生活の質を確保することを目的としており、高齢化社会だからこそ大学病院における抗加齢医療の社会的ニーズがあると考えております。



診察をご希望の方は、まず形成外科を受診していただき(保険診療)、整容美容外科の対象となる病状か否かを診察の上、後日改めて整容美容外科外来(完全予約制/自費診療)を受診していただくというかたちになります。初診での受診はできません。詳しくは形成外科外来にお問い合わせください(011-716-1161 内線6966 平日14:00~16:30)。

患者相談室のスタッフ拡充

医療支援室長 樋口 順一

平成15年から特定機能病院に患者相談窓口の設置が義務付けられ、事務職員が患者さんと医療スタッフの橋渡しの役割を担ってきました。その後、暴言・暴力対策として警察官OBを雇用し、患者相談室に患者相談・苦情窓口と暴言・暴力対応を一本化して現在に至っております。

患者さんからの苦情等は年々増加しております。これは「権利意識の高まり(一部の患者による権利の乱用)」、「医療過誤事件等の報道による医療従事者への不信任感」、「医療に対する過度な期待と治療内容との差への不満」等によるもので、増えることはあっても減ることは無いものと思われま。

近年は相談よりクレーム的なものも多く、患者相談室スタッフは対応に苦慮し、メンタル的なダメージを受ける事もありました。しかしながら患者さんの声をもとに、病院の改善への取り組みを促進することは、良質な医療の提供に必要なことでもあります。最近では患者さんからだけでなく、院内の医療スタッフからの相談も寄せられる事もあり相談室のニーズは高まっております。北大病院ではこの7月に更に2名が増強され、計5名のスタッフで患者相談室の運用ができるようになり、院内のラウンドも出来るようになりました。

また、質の高い相談を目指し、看護職によるサポートを受けながら、患者接遇の研修に加え、毎日、その日の事案についてサポート看護師と共にカンファレンスを行っております。このことは、院内知識の習得のみならず、相談スタッフがダメージを抱え込まずに済む効果も出ております。

腫瘍センター 腫瘍センターセミナーのご案内

化学療法部副部長 木下 一郎

腫瘍センターでは、がん医療に携わる医師、看護師、薬剤師、検査技師等の皆様を対象とした、がん診療の総論・各論に対応するセミナーを開催しております。講師は当院各専門分野の職員が担当しております。この度の当院のがん診療提携拠点病院への指定・北海道高度がん診療中核病院への認定を踏まえ、地域の医療機関の皆様にも公開させていただきましたので、是非ご活用ください。

日時・テーマなどの変更となることがありますので、腫瘍センター化学療法部(011-706-7607)または緩和ケアチーム(011-706-5659)へお問い合わせいただくか、腫瘍センターホームページをご覧ください。

- ① 日時 毎月第3木曜日 18:00~19:00
- ② 場所 病院管理棟2階第1ゼミナール室、または、病院1階臨床大講堂
- ③ テーマ
 - 12月17日 「血液悪性腫瘍」
 - 1月21日 「食道癌」「胃癌」
 - 2月18日 「非小細胞肺癌」「乳癌」
 - (適宜最新の内容を題材にしていきます)



がん相談内容

相談内容で多かったのは、1.ホスピスケアの施設相談、2.がんの治療相談でした。ホスピスケアの施設相談では、転医緩和ケアを目的とした転院病院を探しての相談でした。また、がんの治療相談は、下記の様な高度先進医療などに関する相談が特徴的でした。

相談内容	相談結果
免疫療法をやっているか ・血液の癌に対しての活性NK細胞療法について ・ペプチド療法について ・すい臓に対しての癌ワクチンについて ・肺がんに対してのペプチドワクチンについて	当院では行っていませんが、臨床試験は行っています。※
重粒子線治療をやっているか	当院では行っていません。
4次元放射線治療について知りたい	当院で行っています。かかりつけ医より当院放射線科を紹介していただき、診察の結果適応であれば治療を受けられます。
ワクチン療法をしている場所を知りたい	当院で行っているものがあり、情報提供しています。
腎癌に対する凍結療法について	当院では行っていません。

※全ての癌腫、肉腫に対し臨床試験で行っています。適応条件がありますので、当センターにお問い合わせいただければ担当医師にお取り次ぎいたします。

・ 編 ・ 集 ・ 後 ・ 記 ・

4月に当センターへ配置換えとなりました藤沢と申します。こちらへ来る前は、患者さんと対面での対応を行う外来窓口にいましたが、その前までは、長い間大学の学部で勤務をしていました。病院での勤務経験は僅かに2年半ぐらいですから、まだまだ手探りでやっている状態が続いています。医療機関の皆様とは、直接お話をさせていただくことが多いと思います。よろしく申し上げます。

発行 平成21年11月

北海道大学病院
地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

TEL : 011-706-6037・7040(直通)

FAX : 011-706-7963(直通)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/>

医療機能連携協定について、当センターホームページにアップしました(<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/community/hospital/index.html>)。